

キリスト教神秘主義者の信
仰における病いと救いにつ
いて 第3部



医師と牧師 Timothy
Bright カミの憂鬱



小泉友美 KOIZUMI
Tomomi



目次

医師と牧師 ティモシーブライト Timothy Bright とカミの憂鬱	1
---	---

医師と牧師 ティモシーブライト Timothy Bright とカミの憂鬱

ティモシーブライト Timothy Bright (1551-1615) は、1551 年英国生まれの医者かつ英国国教会聖職者であり、文字による迅速な筆記法を発明しました。1572 年のパリのカトリックとプロテスタント間の争いによるサン バルテルミーの虐殺を体験し、命からがらでロンドンへ逃げ帰りました。16 世紀最後から 17 世紀初頭にかけて、ヨーロッパではこのメランコリー (魂の病い) に対する関心が大きくなりました。

1586 年に、ロンドンにおいて、“メランコリーについての論文 Treatise of Melancoly” (ロンドン 1586 年) の中で、病理学と宗教学的にメランコリーについて 研究しました。

(小泉友美 翻訳)

魂の病気メランコリーとキリスト教の関与について

メランコリーという言葉は、古代ギリシャ語の" melas 黒い" と" kholé 胆汁" という語が合わさって、" メランコリー (憂鬱)" という言葉が生まれました。メランコリーは" 黒い胆汁" であり、人間の気質の" 悲しみと憂鬱" を顕す言葉へと変化しました。4 世紀のキリスト教社会に生きた、エジプト修道士エヴァグリオス ポンティコス の著作" 修行論" に" 8 つの観想" (貪食、放蕩、金銭欲、悲嘆、怒り、虚栄心、傲慢、怠情) の中の 1 つに" アケーディア Acedia 怠情 鬱" として、また、キリスト教の" 7 つの大罪" (傲慢、強欲、嫉妬、憤怒、色欲、暴食、怠情) の 1 つとして知られております。

聖書の旧約聖書内の“詩篇”において、このアケーディア (メランコリー) は" 思い煩い" 詩篇 13:3 いつまで、私の魂は思い煩い日々の嘆きが心を去らないのか、また、" 悩む心" 詩篇 25 : 17 悩む心を解き放ち痛みから私を引き出してください や、" 自分の弱さ" コリントの使徒への手紙 2: 12-9 キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

" 死ぬばかりに悲しい" マタイによる福音書 26:36 私は死ぬばかりに悲しい という言葉で表現されています。

ティモシーブライトの宗教的な" メランコリー" とは、主に人間の意識上の罪による悩みと苦しみとして、友人に語りかけるように霊的書簡として表現されています。

この架空の友人 M は、精神的にも肉体的にもキリスト教倫理による罪の意識に苛まされています。

ブライトは16世紀の英国国教会聖職者として厳格プロテスタント神学（ピューリタン）深く影響され、罪人にくだされるカミの懲罰に関心を持ち、肉体的と精神病はカミから与えられた罰として、説きました。

よって、カミによる怒り、カミによる復讐等厳しいボキャブラリーが出て来ますが、16世紀キリスト教倫理における表現の1つとしてとらえられる事が大切です。

この時代において、"罪人としての意識による苦しみと悔悛は、信仰の道を完成させるためにおいて大切なものでした。

序文 A son ami mélancolique

私の親愛なる友 M へ

愛しき M、貴方の手紙はいかに悲しみの感情に溢れて、嘆きに打ちのめされていることだろうか。

貴方の苦悩はいかに心身の衰弱をしてくれるのだろうか。私は貴方ほど痛ましい悩みはありません。肉体と魂の苦しみによって疲れはてることで、ようやくイエス・キリストへの信心を実践することができます。

"地獄では蛆が尽きることも、火が消えることもない。" マルコによる福音書 9：48

貴方の魂は罪という炎によって一時的に焼き焦がされてゆくように思っても、この地獄に墮された蛆虫は炎の中で焼き焦がされて永遠の悶えが続いてゆくことを考えれば、今、現在のおこないを正していくことが必要であります。

また同マルコによる福音書 9：47 内の "もし片方の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出しなさい。両方の目がそろったままで地獄に投げこまれるよりは、1つの目になってもカミの国に入る方がよい。"

言葉どおり、キリスト教徒として、カミの子としての生き方は厳しいものです。よって、罪の意識に苛まれながらも価値ある"純金"となるには、炎の中で金属が焼かれなくてはなりません。この炎による熱さの試練とは、強力であって、金属がある一定の時間をかけて焼かれなくてはなりません。この"熱さの試練"はあまりにも強力であって、不安と試練に耐え抜けば、"カミの愛"へと近づいていけるでしょう。私は貴方の魂の病が少しずつ回復されるように祈って、僅かながらのキリスト教神学と医学の知識を持って、メランコリーとは何か、その理由、その原因、その治療法について説明したいと思います。この魂の病であるメランコリーに対する怖れに不随するのは、悲しみ、絶望、涙、嗚咽、嘆息または笑いの症状であります。しかし、カミの恩恵を通して慰めを受けることができます。私の苦しみはもうすぐ報いを得ることができ、この試練の時もこの苦しみと哀しみの体験を通して、病いの回復への大きな希望を励ましと慰めとともに、もたらされることでしょう。だから、貴方がこの嘆きの中にあっても、聖なる瞑想と霊的修養を励んで、祈り続けなさい。

カミの平和とともにありますように。

XXXII 章より

(これより XXXII 章から XXXCVI 章まで、架空の友人 M に宛てた霊的書簡風に書いてあります。メモ的に簡潔に紹介してゆきます。)

宗教的な罪の呵責によりおこる良心の苦しみとは、不幸、悲嘆、カミによる怒り、カミによる復讐、罪人の罪深き魂であります。

人間の身にふりかかってくる不幸のなかで、このカミによる怒りにふれて、カミの裁きにかかる程、おぞましいものはないでしょう。

罪人としての罪深き魂にふりかかるあまたの災難とは、肉体にも悪影響を与えます。そしてこの不幸は、人間の魂を激しく痛めつけさせます。

カミによる復讐は、怒りの表現であり、私達人間の心身をだめにしてゆきます。この復讐心と怒りの心とは、悲嘆そのものであって、私達の精神の混乱を甚だしく引き起こしてゆきます。悲嘆とは、絶望的な不安に揺れ動かされることであり、すべての悦楽を奪いさってしまいます。

この罪から生じる苦しみは、心身的肉体と物質と精神的な窮乏によってもたらされます。しかし、魂の問題における貧困、病いやその他の様々な苦しみは辛抱強さと懸命さで解決されてゆきます。

復讐のころや怒りは、私達の心身をだめにしてゆきます。このような悲嘆とは甚だしい精神の混乱を引き起こしてゆきます。

XXXIII 章

宗教上の罪悪感における苦しみの中で、このメランコリーの症状を引き起こしてゆきます。しかし、この罪の意識による魂の苦しみは、病理的な鬱病とは本来異なるものがあります。この鬱病における機嫌のむらは、頭の中の想像の中で引き起こされてゆき、異常な情熱の感情を生み出してゆきます。健康な状態に保たれるには、秩序と精神状態が健全でなくてはなりません。この異常に興奮した感情は、体内の血液が極端に不純な汚されている状態です。

宗教上の罪による鬱病状態とは、カミによる刑罰への恐れによって引き起こされるものであり、このカミの恩恵とはすべてこの地上にある創造物を祝福して、すべての幸福と平和の源であり、慰めを私達にもたらしてくれます。

宗教上による罪への刑罰とは、人間のところに不安のみ覚えさせます。この宗教上の刑罰とは、罪を犯した者すべてに、人生におけるすべての幸福を否定させます。

この宗教上の刑罰とは、カミとの恩恵から引き離すものであり、不安感のみを覚えさせます。

この刑罰はすべての精神的な幸福の否定であって、肉体的な拷問とは異なるものです。

このカミによる神聖な復讐は、カミの怒りによる業火の焼きつくす炎によって、地獄の底まで私達の心身を燃え焦がさせてゆきます。

悪魔に帰属して、支配されるままの敵は過去からの憎しみの感情によって支配されて、私達に苦しみの悶えを与えますが、キリストという救世主は慈愛を持ちながら、私達人間を罪ゆえに罰して、骨と肉体を苦しませます。この信仰による苦しみを受難による宗教的なメランコリーと称して、私達に十字架を背負う苦しみを与えて、この苦しみの重圧は天上の天使達によっても癒やされることをありません。

いきるといふ私達の生命エネルギーは、このメランコリーの闇に閉じ込められて、こころは怖気づいてしまいます。あまりにも優し過ぎるこころは、激しい感情のむらに呑みこまれるままになってしまいます。

この感情をコントロールできない人は、旧約聖書の" 箴言" 7: 22-23 の中で、無知な者として表現されています。

" まるで殺戮場に行く雄牛だ。足に輪をつけられ、無知な者への教訓となる。やがて、矢が肝臓を貫くであろう。畏にかかる鳥よりもたやすく、自分の欲望畏にかかったことを知らない。"

誘惑されて畏に陥った人は、感情をセーブできない無知な人として紹介されています。

XXXIV 章

メランコリーと罪に苦しみ抜く意識との違いですが、身体的には同じくいきいきとした精神が喪失されて、いきいきとした表情を失い、悪夢を引き起こして、少しずつ心身が崩壊してゆくことで覚える恐ろしい気持ちを味わってゆきますが、宗教的な罪の意識による畏れの気持ちとは、" マタイの福音書 27: 5 " イエスを裏切ったユダは、イエスに有罪の判決が下ったのを知って後悔し、わたしは罪のない人の血を売り渡し、ユダが自殺する罪を犯しました。そしてユダは、首を吊って死にました。"

の場面のようにカミの子であるキリストを裏切ったという精神的な罪悪感の苦しみによります。

XXXV 章

宗教的な罪による精神的な苦悩について考える時、すべての生きとし生けるもの(人間)は、地上においての罪人であって、聖なる宗教上の法律に背いた罪への意識を植えさせます。この宗教上のメランコリーは、また疑問を与えさせます。不安性メランコリーを通して、カミの真実の言葉を啓示してくれます。

この静かなる内静の性質は、肉体的な憂鬱症を引き起こしてゆきます。

信仰によって、人間は強く鍛えあげられる事ができ、大いなる慰めの言葉を与えられる事ができます。

すべての宗教的誘惑の罪は恐怖と絶望の感情を与え、悪魔によって肉体を所有されます。悪魔の大群に心身を占領されようが、このキリストによる解放の力とカミの慈愛の力によって、サタンの邪悪さから救われます。

そして、罪なき仔羊であるイエス・キリストの元へと導いてゆき、意気落胆させることなく、私達に信仰においての完全性と慎重さを持つようにさせていただきます。

私達の信仰において精神は正しくあり、すべては純粋でなくてはなりません。この完全性とは、私達の理論や日常行為を通して、最後によりやく美德なる死を待つことの重要性です。

この信仰の試練と慎重さによって、貴方を解放させてくれることでしょう。そして、カミは永遠の幸福、平和と静けさを与えることでしょう。

信仰においての霊的戦いとは、まるで左掌に信仰心を表す平和の福音書を持ち、右掌には悪魔の炎を消しさってゆくカミの言葉という剣を持っており、カミより与えられる救剤の恩恵の塗り薬は頭上へと塗られてゆきます。貴方の罪によって失望しないように、キリストは君の恐れすべてを取り去って天上の恩恵に触れさせます。キリストは純粋、決点のない羊、人類の病の苦しみへの赦しのために、自身侮辱させられて、十字架によって殺されました。この霊的戦いにおいて、常に自分は罪人であるという意識をもたせなくてはなりません。貴方の罪の苦しみに疲れはてても、いずれ、カミはこの試練のなかで慰め、救ってくれるでしょう。

身体的なメランコリーとは、口にする食べ物を通して引き起こされることもあります。不機嫌さの原因であって、毒そのものであります。

食べ物によって毒があり、この毒によって、すべての全身の各部位を極めて混乱させて、とても暴力的で激しい情熱と、感情を生み出してゆきます。このメランコリーとは、精神における気分を左右して、心身を脅かしてしまいます。このメランコリーによって光を嫌って、ただひたすらに孤独を探し求めるのみです。

身体的に落ち窪んだ両眼、落ち窪んだ顔つき、青黒い痣という特徴があります。

このメランコリーは、悲しみによって支配されて、懐疑と恐れを与える。そして、悪魔と感覚における幻覚を与えます。

すべての祈りを通しての辛抱強さ、謙虚さ、慈愛の美德とはカミの子となるための必要条件であります。私達の外的に受ける感覚は、見させる、感じさせる、聞こえさせることであり、現実的なことを忘れさせてくれます。私達の信仰心は、いつもはっきりと明確なものではありません。私達の肉体もまたこのメランコリーを通して大きな損害を受けます。

信仰においての美德を探し求める人々は、精神の貧しさを所有しており、こころを傷つけさせます。

私達の日常生活において、悪魔は言葉を使って人間の心身を支配させ、奴隷化させます。悪魔より、インスピレーションを受けた暴言、絶望、カミの恩恵における復讐と罰はメランコリーの病いのような症状を起こさせます。

XXXVI 章

カミの怒りが貴方の魂を燃やしているように感じるであろう。そして、この耐えられない程の意識内の不安の炎に苦しみ抜くであろう。カミへの果てしない祈りにも関わらず、カミにおける和解と安堵を得ることはできず、永遠なる、カミからの恐るべき有罪宣告を受けました。このカミの怒りとは、あまたの誘惑を通して生じます。1つめは、私達の生まれつきの本性、2つめは、私たちの敵なるサタンによる外部からの影響によって起こります。知識に基づいた強い信仰は、辛抱、経験、希望とともに、増えてゆく信仰であります。またこの信仰心は、私達に溢れかえるばかりの精神的な喜びと慰め、励ましをもたらします。

そして、この信仰心は人間を強く鍛えあげてゆき、遂には大いなる慰めの言葉を私達に与える事がでしょう。

完

キリスト教神秘主義者の信仰における病いと救いについて 第3部

著 者 小泉友美 Koizumi Tomomi

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
